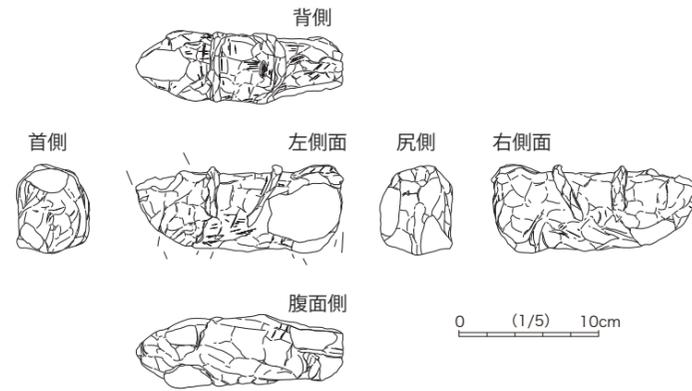


昨年度調査の出土資料から

昨年度の発掘調査では、江戸時代から明治時代にかけての遺構・遺物が多く見つかりましたが、古墳時代以降の遺構・遺物も見つかっています。ここでは、古墳時代から古代（飛鳥・奈良時代）の出土遺物のなかで、土馬について紹介します。土馬は、土で馬の形をかたどったお祀りの道具です。当時、水への信仰や雨乞い、さらには交通のお祀りなどで使われたと考えられます。

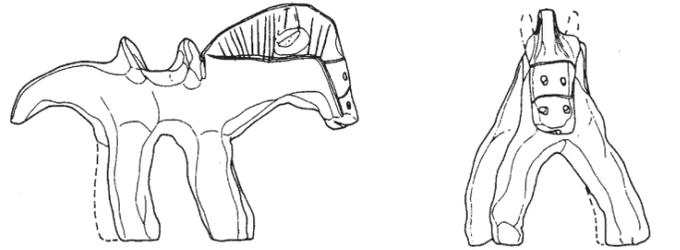
見つかった土馬は長さ一四九センチ、幅五二センチ、高さ六・四センチで、空洞はなく塊の状態で素焼きの焼き物で、重さが四三九グラムあります。現在、



西二葉町遺跡 24 B区出土 土馬

胴体部分のみですが、お祀りの際に、首および四肢の部分は切断されたようです。背中の二条の粘土の貼り付けで、鞍が表現されています。欠失していなければ、本来は下図のような形であったと考えられます。馬は渡来人によって大陸よりもたらされ、古墳時代中期（五世紀頃）に、日本列島に本格的に根付いたようです。騎馬文化の導入にともない、各地で牧の整備などがなされました。合わせて、次第に馬にまつわる信仰なども広まることとなりました。

この資料は、昨年度の調査区24 Ba区の江戸時代の整地層から出土しました。付近では七世紀代の陶器（須恵器）も出土しており、もともとこの頃の活動の場があったようです。江戸時代の成瀬家の屋敷地造成に伴い、混入したと考えられます。（川添和暁）



三重県明和町 斎宮跡（古里遺跡B地区）出土 土馬（三重県教育委員会 1972 『古里遺跡発掘調査概報A地区・B地区』より）

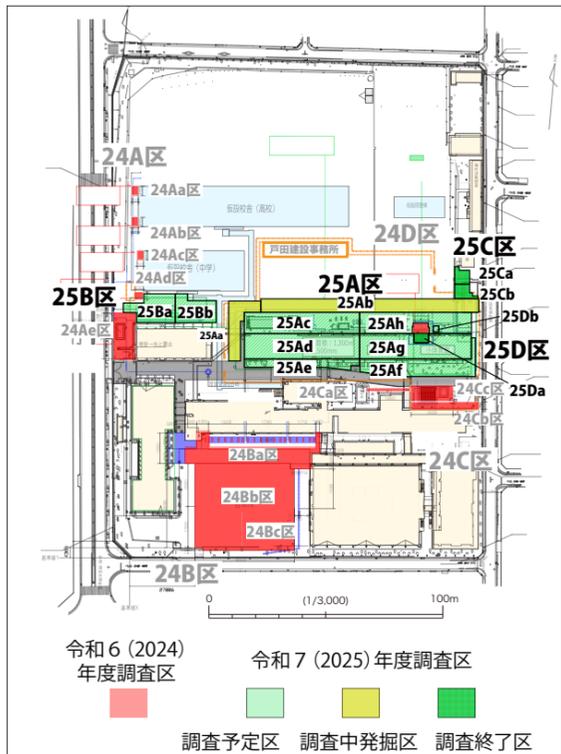
にしふたばちよう 西二葉町遺跡発掘通信

No. 9 令和7年6月号

東門付近の調査が終了しました

こんにちは。愛知県埋蔵文化財センターです。五月から今年度の発掘調査が始まりました。今年度は、二班体制で二箇所の調査を開始しています。一つは東門付近の調査区(25 Ca・Cb区)です。調査中、車や人の往来に関して、大変ご迷惑をおかけしました。こちらの調査は、六月上旬に終了しました。ご協力、ありがとうございます。もう一つは25 Da区です。昨年度の汚染土エリアの隣接地でしたが、こちらも発掘調査は完了しました。薦紋のある軒丸瓦等が見つかるなど、調査成果につきましては、本誌の二ページ以降をご覧ください。現在は、旧北校舎付近(A区)の発掘調査を進めているところです。今後とも、どうぞよろしくお願ひします。

(調査課長 堀木真美子)



西二葉町遺跡 発掘調査区位置図

25 Ca・Cb区発掘調査の成果

東門付の調査区である25 Ca・Cb区では、愛知県立第一中学校校舎の基礎跡が、終戦後すぐに当地に建てられた復興住宅跡とともに見つけられました。さらにその下には、江戸時代の屋敷地造成で築かれた盛土や、ゴミ穴などの大きな土坑が見つかりました。当地は江戸時代の成瀬家の屋敷地では裏側に当たるようです。【続きは二頁へ】



西二葉町遺跡 25Ca区 調査の様子

西二葉町遺跡発掘通信 No. 9 令和7年6月号

編集・発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24
電話 (0567) 67-4161【管理課】4163【調査課】
ホームページ <http://www.maibun.com>
Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>
Instagram <https://www.instagram.com/aichimaibun/>
X <https://twitter.com/aichimaibun/>
印刷・協力 株式会社イビソク

【二頁下段からの続き】

25Ca区【二頁上段】では、地表直下で、多量のレンガ集積が見つかりました。崩れた状態ではありましたが、レンガ積み状態の一部残っているところもありました。部材から愛知県立第一中学校に由来するものと考えられ、すぐ近くにあった建物壁が空襲で崩落し、集められたようです。そのかたわら、ここでは江戸時代の大型土坑も表土近くから確認することができています。陶器



25Ca区土層断面写真

や瓦片がまとまって出土しています。

一方、南接する25Cb区【二頁下段】では、二種類の建物基礎を確認しました。一つは、幅五〇センチを超えるコンクリート基礎で、その下の掘り込みには粘土・巨礫が詰め込まれています【白色①】。基礎の北側には側溝もありました。愛知一中校舎の基礎と考えられ、当時の図面から音楽教室に当たると考えられます。本来はこの上にレンガが積み、木造の建物が建てられていました。もう一つは、やや小振りなレンガによる基礎列で、ここでは二カ所見つけられました【黄色②・③】。一緒に排水用の土管や枡が①の後に設置されたようです。過去の土地利用を示す地図などから、これが戦後すぐに建てられた復興住宅の基礎と考えられます。



(川添和暁)

25Da区発掘調査の成果

旧北校舎跡地に設けられた25Da区は、およそ三十平方メートルの小さな調査区です。五月十二日から二三日までの二週間のうちに発掘調査を行いました。

地面を掘り進めていくと、最初に見つかったのは、コンクリートや、大量のレンガと瓦の破片のまとまりです。これは、旧北校舎の建物の基礎と、旧制中学校の建物の基礎と思われる。レンガは旧制中学校のものでしょう。わずかに混ざっていたガラス片や陶器片は当時の学生の生活の様子を伺うことのできる貴重な資料です。これらの基礎の下を掘り進めると、さらに下の地層から江戸時代の生活の痕跡が見つかりました。特に目立つのは深さ三十センチ程の土坑(穴)です。中からは皿や瓦が出土しました。



レンガと瓦の破片がまとまって出土している様子(北東から)



25Da区発掘調査区 全景(北東から)



瓦と輪禿皿(わはげざら)が出土した当時の様子



今回の発掘調査で出土した瓦
ギザギザの葉がユニークな鳶(つた)紋様



瓦と一緒に出土した輪禿皿(わはげざら)【江戸時代】

重ね焼きができるよう、上に乗せる皿の触れる部分の釉薬が「輪」っか状に「禿」ています。



令和6年度の発掘調査で出土した成瀬家の家紋の入った瓦【家紋は丸に片喰(かたばみ)】

(柳原麻子)

ゴミ穴のようなものでしょうか。皿は輪禿皿といい、ほとんど無傷の状態でした。瓦には、家紋と思われる鳶紋が入っています。江戸時代、この土地には成瀬正成とその一族が暮らしていたとされますが、成瀬家は代々「丸に片喰」の家紋を使っています。それとは異なる紋様を持つこの瓦は、一体誰のものでしょうか。現在調査中です。